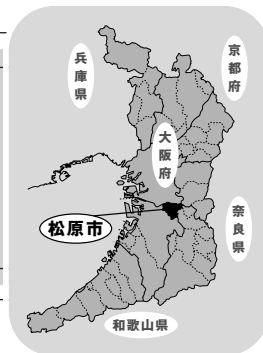


# わたしのまちのPR

ピーアール

## 松原市編



松原市は、金剛葛城連峰を望む河内平野の一角にあり、大阪府のほぼ中央に位置し、大阪市や堺市、羽曳野市、藤井寺市に接しています。市域は東西約5.8キロメートル、面積約16.66平方キロメートルで、大部分が平坦な地形となっています。

大阪都心部からは10～20km圏内にあり、鉄道では近鉄南大阪線により阿部野橋駅から河内松原駅まで所要10分程度で結ばれています。

また、西名阪自動車道や阪神高速道路松原線、国道309号線、大阪中央環状線、近畿自動車道、阪和自動車道などの主要道路との連絡が至便なことから、南大阪における道路交通の要衝地として着実に発展を続けています。

この松原市の魅力や特色について、財政部行政経営課の飯尾さんにお話をお伺いしてきました。



本日はどうぞよろしくお祈いします。

早速ですが、松原市の歴史を教えてください。

よろしくお祈いします。

丹比野とよばれる松原市域は、温和な気候と住みやすい地理的環境により、古くから人々に住まれており、なかでも上田町遺跡や池内遺跡の発掘によって、弥生時代から農耕生活をしてきたことが分かっています。

日本書紀には、古墳時代中ごろの5世紀前半、反正天皇が丹比柴籬宮をおかれたと記されています。のちに丹比柴籬宮跡が「松生いし丹比の松原」といわれるようになり、ここから「松原」の地名が名付けられたと伝えられています。

昭和30年2月1日、松原町、天美町、布忍村、三宅村、恵我村が合併して、府内21番目の市として、松原市が誕生しました。

昭和44年に西名阪道路、大阪中央環状線が開通し、昭和55年には阪神高速松原線が開通した同時期にかけて、都心部の過密と地価高騰が合いまったことから、郊外の人口が増加したことにともない、松原市の人口も急増しました。

昭和50年代を境に人口の伸びが一段落すると、豊かな心身をはぐくむまちづくりとして、社会教育やスポーツ・レクリエーション施設、また、心のふれあいと生きがいのあるまちづくりを進めるため、福祉施設や医療施設の整備に重点が置かれ、ソフト面の施策へと転換がはかられました。

大都市への優れた交通アクセスをそなえたまちとして発展してきたのですね。

松原市のおすすめスポットを教えてください。

近鉄南大阪線河内松原駅から南に行ったところにある柴籬神社は、先ほど名前の挙がった丹比柴籬宮跡に創建されたと伝えられています。

御祭神である反正天皇は、生まれながらにして歯が立派であったと記紀にも記されていることから、

柴籬神社



境内には歯神社が祀られ、社前には、日本でも唯一の石造の歯磨の面があります。

祭典日は、歯にちなんで毎年8月8日午後8時8分に斎行されます。当日は境内に400個ほどの庭灯にロウソクが灯され、夏の夜の風物詩となっています。

また、市の西部には、布忍神社があります。

祭神は、速須佐男之尊、八重事代主之尊、武甕槌雄の尊を祀り、社伝によると北方の天見丘より白布を敷いて迎えたため社名を布忍としたといわれます。本殿の両側面には、江戸時代初期の狩野派絵師による唐獅子の壁画が描かれ、寛文3年（1663）の奉納札も本殿から見つかっています。また、江戸時代初期の「布忍宮」の扁額のほか宝永2年（1705）に奉納された布忍八景絵馬は、当地の文化水準を示すものとして貴重なものです。平成14年（2002）には、本殿と奉納札が大阪府指定有形文化財の指定を受けました。

布忍神社



松原市と羽曳野市との市境界にまたがって、大塚山古墳があります。全長は335m、後円部の直径は185mもあり、全国で五番目に大きな前方後円墳です。

大塚山古墳は、後円部南東に横穴式石室をもつと見られるなど、後期古墳の特徴をもっており、6世

大塚山古墳



紀半ばかそれ以降に築造されたと考えられています。大和王権の大王墓だと考えられていますが、当時墓誌がなかったことから、被葬者を特定できていません。民話には、雄略天皇陵という伝承があります。

美しい自然が多く見られ、花と緑の新大阪百景にも選ばれています。

身近なところに松原市の歴史や伝統が息づいているんですね。

松原市のまつりについて教えてくださいませんか。

はい。松原市では、毎年8月初旬に「まつばら市民まつり」が行われます。このまつりは、市民による市民のための手づくりの夏まつりとして、松原青年会議所が中心になって開催されています。

まつりはパレードで幕開けします。土曜日の午後、市内のメインストリートで、元気に踊る若者や、華やかな衣装を身にまとった団体が、次々と行進します。それに続いて、パレード終着点の松原中央公園で、音楽隊の演奏やダンスなど、たくさんのアトラクションが催されます。

夜になると、松原中央公園では、河内音頭に合わせた盆踊りがおこなわれるほか、様々な縁日が出店して、家族連れなど多くの人でにぎわいます。

二日目には、松原中央公園で趣向を凝らしたアトラクションがおこなわれるほか、松原中央公園に隣接する文化会館では、市民がバレエ、ダンス、民謡などを披露する市民芸能フェスティバルが開催されます。

市民まつりパレード



市民まつりを盛り上げていこうという市民の熱意が伝わってきますね。

松原市の産業を教えてくださいませんか。

松原はものづくりのまちとして、電器・金属・繊維工業などさまざまな産業が集まっています。なかでも、古くから松原のまちを支えてきたのが「印材」「金網」「真珠核」の地場産業です。いずれも伝統の技術に磨きかけたもので、全国的に高いシェアを誇っています。

印材とは、彫刻して印鑑を作る材料のことです。印材は、水牛、象牙等から加工されますが、代表的な水牛についてみると、松原市の生産量は全国でトップなんです。松原市の印材、印鑑づくりは、明治時代の後半に始まりました。戦前までは、家族全員が水牛の角をのこぎりで切り、やすりなどで印材加工を仕上げていました。戦後になって、動力機械が導入されるようになりました。今では、全国の8割を占めるほど印材加工の産業が発達しています。

印材



松原はかつて「河内木綿」の一大産地でした。明治時代の後半、その細やかな手織技術を生かして生まれたのが松原の金網製造業です。網目が非常に細かく、高度な技術力が要求されるスクリーンメッシュ、ハイメッシュのステンレス製金網製造に定評があり、今では自動車・電気・土木などさまざまな業界で松原の金網が使われています。

真珠核の製核業者は、市の北東部に位置しています。市内で加工される真珠核は、米国ミシシッピ上流でとれる淡水貝から作られます。淡水貝を荒切り、小切りの工程からサイコロ状に加工、角を落と

して砥石等で研磨しながら、荒丸め、仕上げ丸め、艶出しといった工程を経て、製品の真珠核となります。松原の真珠核は、三重県の伊勢や愛媛県の宇和島など真珠の産地に出荷されています。

金網



真珠核



松原の強みを生かした産業を展開されているのですね。

松原市での市民協働のまちづくりの取組について教えてくださいませんか。

少子高齢化・人口減少社会の到来などの社会環境の急速な変化に伴い、市民ニーズは複雑化・多様化しています。このような中、市民ニーズに迅速に応え、真に対等なパートナーとして、行政と市民とが協働しながら課題解決にあたる活気あるまちづくりを実現することが重要です。そこで松原市では、平成21年3月に「松原市における「市民公益活動」及び「行政と市民との協働」のあり方についての指針」を策定しました。

市民が主体的にイキイキと暮らせる松原市を実現するため、行政と市民が互いの強みを生かし、弱みを補完しながら、市民と行政がともに汗をかき、共通の目的達成に取り組んでいきます。

市民との協働をサポートする拠点施設を設置されたとお聞きしましたが、これについて教えてください。

松原市では、市民公益活動を推進する基盤づくりの一環として、平成21年4月、「松原情報文化アミニティセンター（ゆめニティプラザ）」内に、「市民活動サポートサロン」をオープンしました。市民活動サポートサロンは、活動したいと思った市民が気軽に立ち寄り、情報収集や相談のできる場所です。市民公益活動団体が会議や講座実施のために安価で活用できる貸し室を備えており、市民公益活動の推進のための講座や研修等も開催しています。

また、市民公益活動の拠点としての機能をより高めるために、熱意と専門知識を持つスタッフの常駐などに取り組み、市民活動サポートサロンのいっそうの充実を図っていく予定です。

市民公益活動の拠点を充実させて、市民の主体的なまちづくりの参画へとつなげていくのですね。松原市の将来を見据えたまちづくりについての取組を教えてください。

はい。松原市の未来への投資として、若者たちのみずみずしい感性を松原市にぶつけてもらうために、若者たちの意見を聞く機会をつくっています。毎年1月、新年の幕開けに、「はたちの夢&トーク」を実施しています。これは、新成人を市役所に迎え、市長や教育長とテーブルを囲み、将来の夢や抱負、社会や松原市に対する様々な意見をお聞きするものです。

平成20年度には新成人1246人の代表として7人を

#### はたちの夢&トーク



市役所にお迎えしました。活発に交わされた若者たちの貴重なご意見などは、今後の市政運営の参考にしていきます。この「はたちの夢&トーク」については、松原市ホームページで概要を見ることができます。

若者の清新な意見を取り入れて、松原市の活性化につなげていくのですね。

その他、松原市の積極的な取組を教えてください。

はい。活力ある元気な松原市を実現するには、なによりも安全・安心のまちづくりが欠かせません。平成21年度も、小中学校耐震補強工事の推進や、全小学校に管理員を配置する市立小学校セフティスクールサポート事業などを重点的に取り組み、安全・安心のまちづくりを推進しています。

#### 松原西小耐震化



さらに、少子化対策、教育政策にも重点的に取り組んでいます。妊婦健康診査の拡充で出産までの間に4回行っていた妊婦検診費用の助成を、平成21年度から14回に増やしました。また、放課後学習等サポート事業により、これまで補習授業の対象外となっていた子どもたちもサポートすることとしました。

こうした取組を進めることによって、「キラリと光るまつばら」を実現したいと考えています。

市民との協働で、明るい笑顔があふれる、「キラリと光るまつばら」が実現することを願っております。

本日はありがとうございました。

ありがとうございました。